

## 巻 頭 言

2024年度の研究成果報告書の発刊に際し、一言ご挨拶申し上げます。

サステナビリティ研究所長として新たに就任いたしました。まず初めに、これまで本研究所に多大なるご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。私たちの取り組みがここまで成長できたのは、地域の皆様、学内外の関係者のご協力とご理解のおかげであり、改めて御礼申し上げます。

サステナビリティ研究所は、地域・社会の持続可能性に貢献する研究活動を推進し、学生や地域との連携を深めた実践的な取り組みを進めてきました。昨年度は、特に「GX（グリーントランスフォーメーション）」や「脱炭素化」の分野において、当研究所が中心的な役割を担う体制が整い、活動の幅を一層広げることができました。昨年11月には、サステナビリティ研究所主催の「SDGs特別シンポジウム」を開催し、環境省の「脱炭素先行地域プロジェクト」に関連する研究成果報告に加え、脱炭素先行地域プロジェクトに取り組む先導企業3社の事例紹介やパネルディスカッションも行いました。シンポジウムでは、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが活発に議論され、本学と地域社会の連携の深化を示すものとなりました。

また、国際的な視点を重視し、昨年9月には鳥取県との連携で学生相互派遣事業を実施し、環境先進国フィンランド・トゥルク市に学生2名と教員1名を派遣しました。この機会を通じて、気候変動や脱炭素に向けた多様なアプローチを学び、国際交流の更なる発展が期待されます。

学内でも、学生EMS委員会からの提案で「TUES Sustainability Week」が再編され、学生主体で脱炭素に関する活動が展開されました。これにより、学生の主体性が育まれ、地域や社会との接点も強化されました。

さらに、鳥取県との産官学連携によるSDGs事業が拡大し、今後も多くのゼミが参画する形で進展しています。当研究所では「SDGs活動推進助成制度」を通じて、学生の企画支援を継続し、学内外のサステナビリティ活動を積極的に支えています。

今後、サステナビリティ研究所はこれまでの実績を踏まえ、地域社会との連携をさらに強化し、国際的な協力ネットワークの拡大を目指してまいります。特に脱炭素社会の実現に向けた取り組みを一層推進し、学生と共に学び、実践し、発信していくことを大切にしていきます。

最後に、日頃よりご支援を賜っている学内関係者の皆様、鳥取県、鳥取市、商工会をはじめとする関係機関の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2025年6月吉日

サステナビリティ研究所長

金 相烈